

市政レポートは、市議会定例会の翌月（1, 4, 7, 10月）に発行しています。

厳しい中での予算編成

平成22年度予算については、議会の賛否が割れたものの、去る3月議会で可決成立しました。反対した議員からはその理由として、1月臨時議会で可決成立した競馬場跡地への調剤薬局整備関連事業を認められないとする意見が出されました。既に議会として決定したことを、それを覆すだけの新たな根拠も示さずにまた反対では、議員自ら議会軽視を行っているといわざるを得ません。

予算編成の参考となった事業仕分けでは、市民の皆様から“福祉切り捨て”との批判の声を頂戴しました。確かに否定できない部分もありますが、前年度に比べ市税収入が約14億円も落ち込むと予想される中での厳しい予算編成であったことを考慮して、私は今回の予算案に賛成しました。しかし、もう少し福祉にも配慮できなかったものか疑問を抱いているのも事実です。

乳酸菌飲料を配りながら独居高齢者の見守りをする“愛のひと声事業”は、当初行政側が廃止を打ち出しました。この事業については、市民の声も賛否両論ありました。しかし、それに代わる独居高齢者見守りの対案も示さずに、廃止だけを打ち出してきたため、議会側は反発しました。その結果、事業自体は復活したものの、その中身は高齢者にも負担を求めるものでした。これでは、高齢者の見守りや孤独感の解消といった福祉ではなく、乳酸菌飲料配布事業になってしまう恐れを感じました。最終的に高齢者負担は見送られましたが、このような案を議会側に出してること自体に問題を抱いてしまいました。また同時に、愛のひと声事業に代わる新たな見守り事業を早急に考えなければならないと思いました。



織原 義明（おりはら よしあき） 略歴

1965年 足利市生まれ/西小学校、第一中学校、足利高等学校を経て

1989年 山形大学理学部地球科学科卒業

1990年 一般企業に入社 塾講師、制作、企画営業を経験

1996年 科技庁（現文科省）主導による地震予知研究プロジェクトに参加
理化学研究所研究員

2003年 足利市議会議員に初当選

2007年 足利市議会議員に二期目の当選、現在、教育経済常任委員会委員

★ 問われる地方議会の存在意義 ★

1月25日、東京で開かれた政策懇談会「二セ議会基本条例を斬るⅡ」に出席してきました。地方議会の役割を改めて規定する“議会基本条例”を制定する地方自治体は年々増加しています。本市ではやっとその勉強会が発足したところです。

この懇談会では、議会基本条例の必須条件として1) 議会報告会、意見交換会など、市民との直接対話の場を設けていること、2) 請願・陳情者の意見陳述の場を設けていること、3) 議員間での自由討議を行っていること、の3つを挙げていました。また、地方議員は国会議員とは異なり、住民によって失職させられることもあります。その点でいえば、地方議員は住民の代表であってもその代表権は限定的といえます。だからこそ、住民と直接向き合い、その意思を議会に反映させなければならないのです。

大豆生田市長は昨年の市長選挙で「市議会議員の定数削減、その削減数は市民の皆様決めていただく」と公約しました。昨年9月の私の一般質問では「議会の動向を見守ってから」と答弁していました。本年6月には議会の動向も定まるかと思われます。その後は速やかに公約を実行に移していただきたいと思っています。それによって、議会の役割は何なのか？どのような議員が本当に必要なのか？など、議会に対する市民の皆様の関心が高まることを期待しています。



政策懇談会の様子

★ 第12回オープンミーティング ★

※) 開催日・テーマ等については、ホームページにてご案内させていただいております。

3月10日市民会館にて、市民の皆様との直接対話の場として設けたオープンミーティングを開催しました。今回のテーマは「平成22年度予算と事業仕分け」でした。事業仕分けの結果については、「福祉ばかりが削られている」といった意見が出されました。また、「何を仕分けの対象にするか自体を考え直すべきではないか」といった意見も出されました。この件については予算審査特別委員会で、「仕分け対象を何にするか市民にも意見を聞いてみたらどうか」と提案し、市のホームページ上で意見を募集することになりました。

★ 以外に知られていない本市の行政改革 ★

本市は第5次足利市行政改革大綱に沿って、平成18年度から歳入増と歳出減による財政効果を生みだしています。このことは、毎年9月の広報あしかがみで市民の皆様にお知らせしていますが、あまり伝わっていないようです。

表1は、平成16年度の決算を基準に、どれだけの財政効果になるかを示したものです。いちばん右の数字が実際の効果額で平成20年度までは決算として確定した額です。いずれの年も当初計画を大幅に上回る結果になっています。例えば平成20年度では、職員数の削減、補助金・交付金の見直し、投資的経費の抑制などにより、約24億円の財政効果を生み出しました。しかし、この24億円は一般会計予算の剰余金や、基金取り崩し、市債発行の抑制に使われたため、新たな事業の予算となるまでには至っていません。

したがって、大豆生田市長の公約にある新たな事業に充てるべき10億円以上の財源は、さらに改革を深堀して出てくるものといえます。例えば、市有施設にある自動販売機について、事業者を競争入札による選定に変えたところ、約3,800万円

年度	当初計画	財政効果額
18	7億4,100万円	23億8,200万円
19	10億8,100万円	21億8,100万円
20	12億8,000万円	24億 400万円
21	15億1,500万円	27億1,300万円
22	18億2,600万円	29億7,400万円

表1：第5次行政改革の結果
(平成21,22年度の効果額は見込額)

の歳入増が見込まれることになりました。こうした改革によって10億円余を捻出し、新たな事業に充てることを多くの市民が期待しているのではないのでしょうか。

市債（市の借金）残高については、過去の市政レポート(Vol.24)にも示しましたが、平成15年度をピークに減少し続けています。平成22年度決算では、1千億円を下回る見通しです（表2参照）。

職員数の削減については、年間13～14人の削減目標に対し、平成18年度は27名、19年度24名、そして、20年度は28名の削減が実施されています。職員数の削減については、既に結果が出ている28名を上回った場合、それが市長のいう改革の深堀による成果といえます。

	H18	H19	H20	H21	H22
目標(億円)	1,138	1,112	1,086	1,062	1,039
結果(億円)	1,127	1,083	1,030	1,003	979

表2：市債残高の推移
(平成21,22年度の効果額は見込額)

織原義明のおもな活動(2010年1～3月)

- 1月5日 新春賀詞交歓会
- 1月9日 競馬場跡地への調剤薬局整備計画に関する市民説明会（市民会館）
- 1月10日 消防出初め式並びに消防表彰式（市民プラザ）、一中・二中地区成人式（織姫公民館）
- 1月12日 競馬場跡地活用調査特別委員会
- 1月15日 議会運営委員会
- 1月16日 グリーン・ツーリズム推進セミナー（市民会館）
- 1月18日 競馬場跡地活用調査特別委員会
- 1月19日 両毛六市議会議長会研修会「分権時代の地方議会を考える」（桐生市）
- 1月20日 幹事長会議、全員協議会、市議会1月臨時会、経済環境常任委員協議会
- 1月22日 広報委員会
- 1月23日 全国災害ボランティア議員連盟総会・研修会（東京）
- 1月25日 政策懇談会「二セ議会基本条例を斬るⅡ」（東京）
- 1月26日 議会改革推進協議会理事会
- 2月4,5日 第14回「震災対策技術展／自然災害対策技術展」（横浜市）
- 2月15日 議会改革推進協議会理事会
- 2月17日 会派予算要望回答ならびに市長との懇談会
- 2月21日 講演会「じょうぶな子どもをつくる基本食」（太田市）
- 2月22日 全員協議会、議会運営委員会、経済環境常任委員協議会
- 3月1日 白鷗大学足利高等学校卒業式、市議会3月定例会本会議
- 3月8,9日 市議会3月定例会本会議
- 3月10日 市議会3月定例会本会議、第12回オープンミーティング（市民会館）
- 3月11日 第一中学校卒業式
- 3月12日 予算審査特別委員会総括質疑
- 3月15日 予算審査特別委員会総括質疑、議会改革推進協議会
- 3月17日 予算審査特別委員会第3分科会、経済環境常任委員会
- 3月18日 けやき小学校卒業式
- 3月19日 足利工業大学学位授与式
- 3月22日 「個別農業保障制度」に関する勉強会（梁田公民館）
- 3月24日 議会運営委員会、予算審査特別委員会、市議会3月定例会本会議

※ホームページでは、毎週の活動報告等を随時更新しています。詳細はそちらをご覧ください。

<http://www.watarase.ne.jp/orihara/>

＜政務調査費の公開＞

足利市では市議会議員の調査研究に資するため、必要な経費の一部として議員個人に対し、政務調査費を交付しています。交付額はひとり当たり年間84万円です。平成22年度は厳しい財政事情を踏まえ、12万円減の年間72万円になります。収支報告は1年単位で行われ、その収支報告書は情報開示により閲覧が可能です。また、来年度からは使途基準がこれまで以上に厳しくなった新しいマニュアルが適用されます。

今回は正式な収支報告書作成中につき、政務調査費の暫定報告を割愛させていただきます。次回の市政レポートのなかで、平成21年度政務調査費の収支報告をさせていただきます。

この市政レポートは政務調査費により作成されています。